支援プログラム

事業所名　　放課後等デイサービスLove＆smile　もあ

作成日　　令和８年３月２日

法人(事業所)理念	私たちは人と人とのかかわりを大切にし、お子様一人一人のニーズに基づいた支援と療育を目指します。また保護者との関係を密にし悩みや不安の解決策を常に探し求めお子様が成長する喜びを分かち合える関係を築いていきます。私たちは愛情をもって接し、お子様を輝ける未来へ導いていきます。
支援方針	楽しみながら学べる遊びや様々な個別活動、小集団活動を通して小さな成功体験や喜び、一歩一歩の自立を積み重ねることで達成感や自尊心、自己肯定感を育むこと大切にしています。お子様一人ひとりの将来を見据え社会的スキル向上、習得を目指していきます
営業時間	月曜日から金曜日 ８時30分～17時30分
送迎実施の有無	(あり)　なし
職員の質の向上	各委員会からの研修 強度行動障害(基礎・実践)などの研修 毎朝の朝会での共有・具体的な手立てや確認 外部研修・内部研修
主な行事等	(季節行事) 書初め・初詣・節分・お雛祭り・進級式・お花見・子どもの日・七夕 家族の日（父の日・母の日）・流しそうめん・こどもの国ランチ・十五夜 ハロウィン・紅葉狩り・勤労感謝の日・クリスマスなど 季節により、海に行く・公園にお散歩・誕生会 長期休業中は公共交通機関（電車、バス）を利用、様々な体験活動（スノーチューブ、ブルーベリー狩り、三社大祭見学、えんぶり観賞）公共施設での買い物や食事でのマナー体験、野菜栽培・クッキング体験を通しての食育

支援プログラムから個別支援計画作成までの流れ

① **アセスメント**　お子さんの状況を把握する。保護者様からの聞き取り、状況にお子さんの状況の聞き取り、相談支援員さん・学校などの関係機関からの聞き取りをします。

② **支援プログラム作成**　アセスメントに応じ、それぞれの課題に合わせて支援方法・内容に合わせて選択します(別紙(具体的な支援プログラムを参照)　５領域項目の中からお子さんに最も効果的な方法を検討し、アセスメントに基づき、個別支援計画を作成します。個別支援計画は、保護者やお子さんに説明し同意を得て実施していきます。

③ **支援の実施**　支援の内容はお子さんの発達や特性に合わせ、課題を設定します。小集団・個別それぞれの課題に取り組む時間を作ります。集団の活動内では達成基準をお子さんに合わせ、出来ることから徐々に広げられるようかかわっていきます

④ **再評価**　個別指導計画で作成した目標が、どの程度達成されたかを評価します。評価は、児童発達支援管理責任者・実務対応している職員全員で評価をし、職員が考える達成度合いについて客観性が確保できるよう留意しています。評価した結果から、児童発達支援管理責任者が個別支援計画内容を修正します。

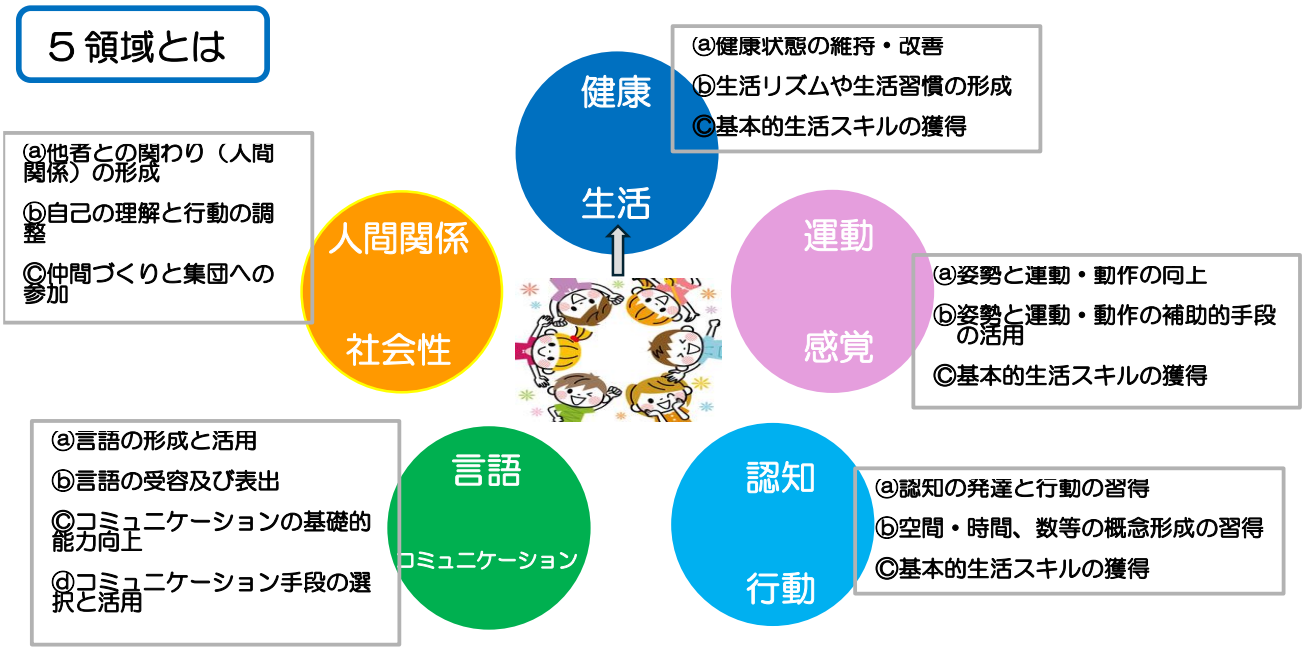
放課後等デイサービス　Love&Smile　もあ支援プログラム

３つの支援とは

５領域すべてを含めて総合的な支援を提供・個別支援計画等において５領域とのつながりを明確化しています。

- 発達支援（本人支援・移行支援）
- 家族支援
- 地域支援

５領域とは



【具体的な支援プログラム】

領域・ねらい	支援内容	具体的な活動例
健康①生活 ⓐ健康状態の維持・改善 ⓑ生活のリズムや生活習慣の形成 Ⓒ基本的生活スキルの獲得	**ⓐ健康状態の把握** ・自らの健康で安全な生活を作り出すことを支援する ・利用時の健康状態チェック（体調変化の際には適切な対処を行う） ・意思表示が困難な子どものサインに気づけるようなきめ細やかな観察 **ⓑ健康の増進** ・睡眠、食事、排泄等の基本的な生活リズムを身につける支援 ・食を営む力の育成と楽しい食事への配慮、支援（咀嚼、嚥下、姿勢保持等） ・病気の予防や安全への配慮 **Ⓒリハビリテーションの実施** ・それぞれの子どもに合った身体的、精神的、社会的訓練を行う **ⓓ基本的生活スキルの獲得** ・身の周りを清潔にし、食事や衣類の着脱等生活に必要な基本的技能の習得に対して特性に合わせた支援を行う **ⓔ構造化等により生活環境を整える** ・生活の中で様々な遊びを通して学習できるよう環境を整える ・特性に合わせ時間やスケジュール、空間等視覚的にわかりやすく構造化する	・検温 ・表情と行動のチェック ・アレルギーチェック ・安全点検 ・身支度の習得 ・トイレトレーニング ・畑での栽培、食育 ・口の体操 ・ ・理学療法士による機能訓練（バランスボール・歩行訓練等） ・指先を使用した訓練（スポンジつかみ・タオル引っ張り・キャンディ作り等） ・手洗い、うがい、身支度の習得 ・知育玩具（ボタン掛け等） ・体や髪を洗う指導練習 ・挨拶、自己紹介 ・スケジュール確認 ・写真等の視覚的教材 ・表現や気持ちの理解などのソーシャルスキルトレーニング ・個別空間支援

領域・ねらい	支援内容	具体的な活動例
運動 ② 感覚 ⓐ姿勢と運動動作の向上 ⓑ姿勢と運動動作の補助的手段の活用 Ⓒ保有する感覚の総合的な活用	**ⓐ姿勢と運動・動作の基本的技能の向上** ・姿勢保持や上肢、下肢の運動 ・動作の改善及び習得 ・拘縮や変形の予防 ・能力の維持、強化 **ⓑ姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用** ・姿勢保持の各種の運動、動作が困難な場合様々な補助用具の補助的手段を活用して支援する **Ⓒ身体の移動能力の向上** ・日常に必要な移動能力の向上のために運動に関する遊び活動を実施していく **ⓓ保有する感覚の活用** ・発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう遊びを通して支援する **ⓔ感覚の補助及び代行手段の活用** ・保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう環境配慮、眼鏡や補聴器等を活用できるよう支援する **ⓕ感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応** ・感覚や認知の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の提案及び支援を行う	・体操、ストレッチ ・だるまさんポーズ ・飛行機ポーズ ・戸外遊び ・線上歩き ・椅子、テーブルの高さ調整（姿勢保持） ・バランスボール ・サーキット遊び ・トランポリン ・しっぽとり ・椅子取りゲーム ・かえるゲーム ・洗濯ばさみ遊び ・ビジョントレーニング ・くもの巣くぐり ・スポンジ積み ・指とんとんゲーム ・紙やすり絵描き ・指先を使用した訓練（紐通し・色水遊び・トングつまみ等） ・スライム作り ・新聞遊び ・足裏刺激 ・体で輪投げ ・連続ジャンプ

領域・ねらい	支援内容	具体的な活動例
認知 ③ 行動 ⓐ認知の発達と行動の習得 ⓑ空間・時間数等の概念形成の習得 Ⓒ対象や外部環境の適切な行動の習得	**ⓐ感覚や認知の活用** ・視覚、聴覚を十分活用して、必要な情報を収集し認知機能への発達を促す支援を行う **ⓑ知覚から行動への認知過程の発達** ・環境から情報を習得し、必要なメッセージを選択して行動に繋げる一連の認知過程の発達支援を行う ・特性に合った環境整備、関わり方に関する支援を行う **Ⓒ認知や行動の手掛かりとなる概念の形成** ・物、形、色、音が変化する様子、空間や時間等の概念の形成を図ることで認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援を行う **ⓓ数量、大小、色等の習得** ・発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための日常生活で具体的な働きかけを行う **ⓔ認知の偏りへの対応** ・個々の認知の特性を把握し情報を適切に処理できるよう環境調整や支援者の関わりの指導を行う ・ご家庭へ認知の偏りや特性に関する具体的な支援を提供していく **ⓕ行動障害への予防及び対応** ・感覚や認知の偏り、コミュニケーションの難しさから生じる行動障害に対して予防策を講じ、適切行動の獲得に向けた支援を行う	・ビジョントレーニング ・たくさん入れよう ・オノマトペゲーム ・個別空間支援 ・視覚的教材（声の大きさ・時計など） ・まねっこ遊び ・形、色のなかまわけ ・シルエットゲーム ・マッチングゲーム ・大きい小さい仲間分け ・お買い物ごっこ（買い物スキル ・間違い探し ・毎月のおたより、日々の連絡帳 ・保護者との面談 ・モール文字 ・線結びゲーム ・スケジュール確認 ・個別空間支援 ・陣取りカードゲーム ・ことばのひらめきゲーム ・おぼえておこうゲーム

領域・ねらい	支援内容	具体的な活動例
言語 ④ コミュニケーション ⓐ言語の形成と活用 ⓑ言語の受容及び表出 Ⓒコミュニケーションの基礎的能力の向上 ⓓコミュニケーション手段の選択と活用	**ⓐ言語の形成と活用** ・具体的な事物や体験と言葉の意味を結び付ける等により、体系的な言語の習得、自発的な発生を促す支援を行う **ⓑ受容言語と表出言語の支援** ・発達段階に応じた言葉や文字を使って相手の意図を理解したり（受容）自分の考えを伝える（表出）支援を行う **Ⓒ人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得** ・個々に配慮された場面での人との相互作用を通して、コミュニケーション能力向上のための支援を行う **ⓓ指さし、身振り、サイン等の活用** ・指さし、身振り、サイン等を用いて発達段階に応じ環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるような支援を行う **ⓔ読み書き能力向上のための支援** ・特性に応じた読み書きの向上のための支援を行う **ⓕコミュニケーション危機の活用** ・各種の文字、記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択活用し環境の理解と意思の伝達が円滑に出来るよう支援を行う **ⓖ手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用** ・音声、文字、触覚等の多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援を行う	・口の体操 ・ひらがなと音のマッチング ・音のかず ・挨拶 ・二語文トレーニング ・表現や気持ちの理解などのソーシャルスキルトレーニング ・気持ちの代弁、擁護 ・今日の出来事お話会 ・文字ならべクイズ ・しりとり ・伝言ゲーム ・ストップゲーム ・視覚的教材 ・口の体操 ・ジェスチャーゲーム ・モールで文字を書こう ・ひらがな表 ・なぞり書き ・ぬりえ ・表現や気持ちの理解などのソーシャルスキルトレーニング ・文字、音、ひらがなカード ・生活環境の整備 ・文字穴埋めゲーム ・伝言ゲーム ・イメージゲーム ・ひらめきマップ

領域・ねらい	支援内容	具体的な活動例
人間関係 ⑤ 社会性 ⓐ他者との関わり（人間関係）の形成 ⓑ自己理解と行動の調整 Ⓒ仲間づくりと集団への参加	**ⓐアタッチメント（愛着行動）の形成** ・人間関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う **ⓑ模倣行動の支援** ・遊び等を通じて人の動きを模倣することにより社会性や対人関係の芽生えを促していく環境調整、関わりの支援を行う **Ⓒ感覚運動遊びから象徴遊びへの支援** ・発達段階に応じた感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせるための遊びの環境調整を行う ・見立て遊びやごっこ遊び等の抽象遊びを通し関わり方を提案する中で除々に社会性の発達の支援を行う **ⓓ一人遊びから協働遊びへの支援** ・一人遊びから並行遊び、連動遊び、役割分担やルールを守って遊ぶ協働遊びを通してスモールステップで遊びの育ちを促し社会性の発達の支援を行う **ⓔ自己の理解とコントロールのための支援** ・発達段階に応じた関わり方の提案をし、自分のできること出来ないことなど自分の行動の特徴を理解し気持ちや情動の調整が出来るような支援を行う **ⓕ集団への参加の支援** ・発達段階や特性に応じ、集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団生活に参加できるような支援を行う	・触れ合い遊び ・挨拶 ・自己紹介 ・季節の行事 ・お買い物ごっこ ・公共機関へのお出かけ ・繰り返しをまねようゲーム ・新聞じゃんけん ・おままごと ・ダンス ・リトミック ・バランスゲーム ・コーナー遊び ・ごっこ遊び ・鬼ごっこ ・カードゲーム ・ジェンガ ・表現や気持ちの理解などソーシャルスキルトレーニング ・信号ゲーム ・語想起すごろく ・公共施設へのお出かけ ・協力ゲーム ・良いところさがし ・宝さがしゲーム ・色違いを叫べゲーム

家族支援

家族に対して障害の特性や発達の各段階に応じて子どもの「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に置き、保護者の思いを尊重し、保護者に寄り添いながら丁寧な支援を行って行きます

ねらい	A：支援内容
ⓐ家族から相談に対する適切な助言やアタッチメント形成（愛着行動）等への支援 ⓑ家庭の子育て環境の整備 Ⓒ関係者・関係機関との連携による支援	ⓐ子どもに関する情報の提供と定期的な支援調整 ⓑ子育て上の課題と聞き取りと必要な助言 Ⓒ子どもの発達上の課題についての気づきの促しとその後の支援 ⓓ子どもを支援する輪を広げるための橋渡し ⓔ相談支援員との定期的な支援会議や支援計画の調整 ⓕ関係者・関係機関の連携による支援体制の構築 ⓖ家族プログラム（個別の面談等）の実施
具体的支援内容	
○子育ての悩みなどに対する相談を行い、様々な家族の負担を軽減していくための家族全体（父母、祖父母、兄弟）の相談援助等の支援を行っていく ○家庭内での療育において「子どもの成長を支える力」を付けられるような支援を行っていく ○支援場面の観察や参加等の機会を提供し、子どもの特性や特性を踏まえた子どもへの関わり方等に関しえて相談支援等を行っていく ○保護者の時間を保証するために、子どものケアを一時的に代行する支援を行っていく	

地域支援

障がいのある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）を推進するため関係機関との連携を進め、地域の子育て環境や支援体制の構築を図っていきます

ねらい	A：支援内容
ⓐ地域における連携の核としての役割 ⓑ地域の子育て環境の構築 Ⓒ地域の支援体制の構築	ⓐ医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携 ⓑ教育機関の関係者等との連携 Ⓒ個別のケース検討のための会議への出席
具体的支援内容	
○社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように社会経験の幅を広げていく ○他の社会福祉事業や地域において放課後等に行われている多様な学習・体験・交流活動等との連携、ボランティアの受け入れ等により、積極的に地域との交流を図っていく ○移行支援を含め可能な限り教育等の支援を受け入れられるようにしていくと共に、同年代の子どもとの集団の中での仲間作りを図っていく ○ライフステージに添って、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目のない一貫した支援を提供する体制構築を図っていく	

移行支援

進学・就職などのライフステージ切り替え時に子供が円滑に次の環境(学校・職場など)適応できるよう、関係機関との連携、支援内容共有、生活スキルの習得支援、地域交流の促進などを計画的に行っていきます。

ねらい	A:支援内容
ⓐ移行先との情報共有と連携 ⓑ生活スキル・訓練 Ⓒ家族への相談援助 ⓓ地域との交流促進	ⓐ移行先へ本人の特徴や支援内容や方法を具体的に共有する ⓑ移行先で必要なスキルを身に着けるための支援の充実 Ⓒ進路選択や移行準備に関して保護者の不安を軽減するための支援 ⓓ地域社会とのつながりを深める機会を作る
具体的支援内容	
〇新しい環境の担当者と支援内容や方法を共有していく 〇移行先で必要なスキルを身につけるための支援。公共交通機関や利用練習やお金の管理、集団活動のルールの理解、時間管理のトレーニングなど実践的な支援に取り組んでいく。 〇進路選択や移行準備に関して、保護者の不安を軽減するための支援をする 〇移行前から移行後まで、支援者同士が連携してサポートを継続していく。	